

レタスの生産性に及ぼす土壌条件について

一豊浜町・大野原町における調査事例一

真鍋武夫・白井美和・大熊正寛

1～2月どりレタスの収穫性に及ぼす土壌の理化学的な諸要因を明らかにするため、豊浜町・大野原町においてレタス栽培ほ地を高位収穫ほと低位収穫ほの2グループに分けて土壌の理化学性を比較し、更にこれを地質、母材、土性が異なる大内町のレタス栽培ほ地土壌と比較検討した結果、次の諸点が明らかになった。

1. 和泉砂岩、泥岩を主要母材とし、粘土・シルト含量が多く、土性が細粒質な大野原町土壌の場合には、腐植含量など化学性の面ももちろん重要であるが、それ以上に作土の厚さとか孔隙量(とくに細孔隙量)など物理性の面がレタス収量を支配していることが判った。

2. 花こう岩類を母材とし、砂含量が多く、粘土・シルト含量の少ない粗粒質な大内町土壌では、作土の厚さ、有効水分量、塩基置換容量、塩基含量など物理性、化学性の両面がレタス収量を支配していることが判った。

3. 本調査を通じて本県における1～2月どりレタスの土壌的適地は、冬季の地下水位が60～80 cmにあり、しかも極端な変動を示さず、粘土+シルト含量が40%以上の地帯であることが推測できた。